

わたくし達の自動車

(口給参照)

——具體的生活指導による保育——

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園保母

徳久孝子

此の四月から大きい組になりました子供達は、製作に、お遊びに、目立つて變つて参りました。先生なしでもよくお外で遊べる様になりましたし、製作では木工等を非常に好む様になりました。

『先生、僕に金槌貸して』

『僕に鋸頂戴』

と、朝お室に這入ると直ぐから大工道具の請求で御座います。丁度金太郎の立繪をする爲に、めい／＼のお家から木のお菓子折の空を持ち寄りましたが、蓋だけを立繪に用ひまして身の方が残りましたので、早速これで飛行機、電車、ロボット等々色々の物が作られました。

何時もよく喧嘩をする人達も、お互に木をおさへ合つたりして、永い時間飽きる事なく續けて居ります。こんなに皆が木工に興味を持つて居るなら、獨り／＼の製作もよい

が、共同して大きな製作をして見たらどうかしら。丁度先學期、女の方にお人形さんを作りましたので、お人形さんを連れて遊びに行く事の出来る様な物を作り度いと思ひました。或日電車作りの一團のお手傳ひをしながら『この電車に乗れるといゝわね』と申して見ますと、

『うん、いいね、大きいのを作れば乗れるよ』

『ちやあ皆で作りませうか』

『さうだ、作らうよ』『作らう』と男の人達は直ぐに賛成してくれました。

『先生この板でいい』と木片の一端を持つて、もう作る積りで居ります。

『その板は弱いでせう、だから皆が乗つたらすぐ折れてしまひますね。材木屋さんに行つてもつと丈夫な板を買つて來て作りませう』

『そしたら、僕に切らしてね』『僕にもね』と、もう忽ち豫約です。

『それでは電車、汽車、自動車、どれにしませうね。お友達皆さんに御相談して見ませう』と言ふ事になつて、早速お相談を始めました。自動車、電車、汽車、ケーブルカー飛行機、タンク、等々色々出て來ましたが、自動車が一番多い様で御座いましたので、自動車を作るといふ事に決りました。

『いゝなあ、乗れる様な大きいのを作るんだつて』『嬉しいね』

と子供達はもうニコ／＼して、暫くの間色々な自動車のお話して持ち切つて居りました。それから二三日の間型を考へたり、設計をしたりして、ごた／＼過して居りますと『先生、自動車どうしたの』『まだ作らないの』と矢の催促で御座います。これではならないと、兎に角子供が乗つて動かせるもの、五六人乗つても毀れない様に、といふ事を第一條件としていよ／＼製作に取りかかりました。實習生と一緒に、或子供は材木屋さんに、或子供は釘を買ひに出掛けて、皆の顔が希望に輝いて居るかの様に見えまし

た。板が参りますと、子供達はもう大喜びで、私共が赤い鉛筆で線を引いて上げるのもどかしく、板を切つたり、釘を打つたり致しました。

丁度五月の月に這入つて、すが／＼しい五月晴れの日が續きましたので、お室の中で大工さんもしたい、然し此のよい御天氣にお外に出なくては、と思ひましてお庭に大工机やら、板を運んで致しました事も幾度か御座いました。脊中一ぱいに五月の陽を浴びて、お友達に持つて戴いたのでは足りなくつて、自分が板の上に乗る、額に汗を一ぱいにじませて切つて居る光景は、本當にほ／＼笑ましいもので御座いました。

土臺、先づ全體の大きさを、長さ七尺（前月號の六尺五寸は計り違でした）横三尺五寸、高さ三尺三寸に致しました。最も土臺になる木は幅二寸四分、厚さ一寸二分、長さ全長だけの、丈夫な物を四本求めまして、中央の二本は眞直に、兩端は、後は横の幅だけ一ぱいに置き、前は一尺八寸になる様斜に置きました。此の上に蝦夷松の板割を横に張りまして床を作りました。

箱になる部分は運轉臺まで後と同じ三尺五寸の幅で張り、

それから前の方は次第に狭くして、一番前は一尺八寸に致しました。兎角する中に、直径約一尺の車を四個手に入れる事が出来ましたので、皆元氣百倍して、車を見ただけでも出来上つた様な喜び方で御座いました。この車の心棒（金）を土臺に取付ける爲に、土臺の木に前から一尺五寸、後から八寸の所に細い溝を作りました。

後部、後は兩窓に柱になる丈夫な木を置いて、此れに上から五寸の所に窓（長さ一尺四寸、幅九寸）を開けておきまして、後は全部板を張りました。

窓の所は中央を明け、兩端はミシン鋸で少し丸みをつけた板を張りまして、全體として橢圓形に致しました。又内部にお客様の腰かける椅子を取付けました。腰かけて丁度窓から外が見える様に、子供のお椅子を標準に致しまして高さ九寸五分、幅八寸六分、に致しましたが之れで丁度工合がよろしい様で御座います。始めに餘りの板切れ（横板）を用ひましたら、二三度子供を腰掛けさせて見て居ります中に、眞中から二つに割れてしまひました。かういふ時には必ず板を縦に用ひないと割れやすい弱いといふ事を經驗致しました。

踏み板、丈夫な木を二本、土臺の木の下へ横に渡して取付けて板を張りました。踏み板は下に何にも支へが御座いませんし、乗る時必ず足をかける所で御座いますから、中に何本も横木を渡して特に丈夫に致しました。

柱、出来上つた後部をさかしまに置いて、この上に土臺を乗せ、箱の前部、運轉臺の入口、ドアの所等合計八本の柱を其の位置に立て、土臺に打ちつけました。子供達の切りました柱は、どれもくでこぼこに切れて居りますので柱をしつかり立てる事はかなり困難で御座いました。この柱をしつかりさせる爲に、天井に幅約二寸位の板を打ちつけて置きました。次にもう土臺から打ちつける物も御座いませんで、車の心棒を、前に作つて置きました切り込みに入れ、下から同様切り込みを作りました小さい木をあて心棒を固定させました。此處あたりでは約二寸位もある大きな釘を打ち込みましたが、曲りもせず上手に打てました中には一息でした人も御座いました。

側面、いよ／＼側面を強る様になりました。設計では兩側にドアを付ける積りで御座いましたが、どうも弱くなりませう様でしたから、片側だけに致しました。片側は箱の部

分だけ全部通して板を張り、上から五寸下つた所で、九寸（丁度板一枚分）だけ窓にする様明けて置きました。ドアの付く側は、乗客の乗る部分だけやはり窓を残して張り、窓から上の部分は、片側と同様に全部前まで張りました。序に運轉手臺の前も、窓から上の部分だけ側面と同寸法に板を張つて置きました。

前部、土臺の一番前に一尺五寸五分、の高さに柱を立てて、其處と運轉臺の窓の下の所とに、斜に板を張り渡し、側面及び前と、全部板で張りました。實際の自動車は、運轉臺の所から少しづつ曲りが出て居りますが、板で致しませう事とて、ゆるやかな曲りが付けられませんので此の様に致しました。

天井、次に天井は側面よりも、薄い板ではりました。

ドア、二つのドア共同様に、始めにドアの大きさにだけ枠を作つて、下の方だけ板を張り、上は窓に致しませう爲に明けて置きました。丈夫にする爲に、又セルロイドを張ります爲に、之れは私共で枠を組合せに作りしました。これを蝶番ひ三個で箱に取り付けて、引手を付けました。

泥除け、ブリキの有り合せを長さ三尺、幅四寸五分に切

りまして、三方は危くない様に折り伏せました。残つた一方の長い部分を、全體に五分程の切り込みを入れて、適當な曲りを付けて箱に取り付け、短い一方の端を踏板の所に付けました。ブリキを用ひます事は手を切る心配が御座いますので、これは私共で作りました、色塗りだけ子供が致しました。

色塗り、塗料は海の組の人形のお家にお塗りになつたマシンノと同じ様な品で、カゼインと申しますのを用ひます。つもりで用意致して居りました。所が或る朝珍らしくKさんのお母様がお見えになつてのお話、

『子供が家へ歸りまして毎日自動車々々々と申しました。小さい玩具のつもりで居りましたので、玩具のと申しましたら異ふよ、僕だつて先生だつて乗れる様なのだよと、大變おこつて居りました。明日は其の色を塗るのだから、汚いエプロンを持つて行く、と申しますので、其れではお家にあるラツカーを是非使つて戴き度いと思ひまして、今朝持つて參りました』と、重いラツカーの罐入りをいくつもお持ち下さいました。私は此の時、本當に涙の出る程嬉しう御座いました。此の御厚意、Kさんはどんなお顔をし

お母さんに自動車の説明をなさつたのかしら、と今更ながら子供達がどんなにか、楽しみにして居るのだと感じました。早速、このラツカーのグリーンで塗つて見ましたが少し色が強すぎますので、後からカゼインのクリーム色とラツカーを混ぜて塗りました所、意外に落付きのあるよい色になりました。中側は全部カゼインのクリーム色で塗りました。

窓。菊池先生にお教へいたゞいて、人形のお家の窓に張りましたセルロイドを用ひまして、前後及びドアの所は、中側から小さい木でおさへて釘で留めました。運轉臺と乗客の所は『オーライ〜』と助手が手を出したり、又窓から首を出して『左様なら行つて参ります』と言つて居りますので、此處を張つてしまつては、此の遊びをさまたげますし、此處だけ残しては變でずし、色々考へました。結局此處は、自由に上げ下げの出来る戸をはめる事に致しました。極く薄い又細い板で、外側の枠と内側の枠を作り、其の間にセルロイドを挟んで短い釘で留めます。丈夫にする爲に、又引かゝらない様に此の枠は板を組合せに致しまして、箱と同様の色を塗りました。それを窓の所にはめま

して、中側に細い木を打ちつけてはすれない様に致しました。かうするので御座いましたら、始め柱を立てます前に戸の通る溝を作つて置きましたら、體裁もよく又工合もよく参りましたのにと、残念に思ひました。

片端に引掛けて留める金具を付けまして、一寸はずせば戸が下に下りる様に致しました。此れは非常に子供に喜ばれまして『先生いゝのが出来たわね』と如何にも嬉し相に申してくれました。

『今日は雨降りですから、お客様窓をおしめ下さい』と申したりして、開けたり閉めたり絶えず致して居ります。これで大體外側が出来上りましたので、中の附屬品を作る事に致しました。

補助椅子と運轉手の椅子は残り木で高さを一尺程に作りカゼインで色塗りを致しました。このお椅子作りは、外側を作る方と別れて致しましたので、此處に書きましたが實際はもつと早くに出来て居りました。

ハンドル。先月號の日記の所に書きました様に、古い丸盆をシン鋸で切り抜いて黒い色に塗り、有合せの椗の丸棒をつけて、床に穴を開けて指し込み、倒れない様に木で

おさへを付けました。

ライト。ブリキの空罐のやゝ大きいのを二つに切りまして、底の部分を丸く切り抜いてセルロイドを張り、自動車につく部分は深く切り込みを入れ、少しつぼめて上に日本紙を張りました。不注意な私共は、これでよいものと思つて居りました所、

『球が無いやね』

『夜になつたら困つちやうね』

等と申して居ります聲を聞きまして、びつくりして中に小さい球を入れました。後のライトも同様にして、赤いセロハンを張りました。

ラツバ。これは一寸作れませんので、子供の自動車のラツバを求めて来てハンドルの脇に付けました。

タツシヨン。洋服地のクリーム色のを一ヤール求めまして、ユウゼンクレオンで水蓮の模様を書いて貰ひました。蒸して色留をし綿を入れて作りました。

花瓶と花。ボール紙で三角型の花瓶を作つて、中に小さい硝子の瓶を入れ、バラの花を作つてさしました。

ガソリンの入れる所。このガソリン入れる所は丸い形の

もの、鳥の形をしたもの、人の形のもの、等色々ある様で御座いますが、丸形の物を作る事に致しました。丸い竹を二寸位に切つてこの上にマヨネーズ・ソースの蓋をのせて色を塗りました所、割合ひにそれらしい感じが出ました。

後に下げる人形。は色紙でフラ／＼人形を作りしました。

乗客の持つ紐。有り合せの緑色の布を細く切つて三本を編み合せ、端に房をつけまして、中の柱に下げて置きました。

後のタイヤ。車の古いのが御座いましたので、これにゴムホースの不用のをタイヤに見立てゝ車に巻き細い針金で所々留めました。そして後の窓の外の所に釘で打ちつけて置きました。

番號札。板を黒エナメルで塗りまして、其の上に白エナメルで書いて貰ひました。○○○はヤマクミと言ふつもりで御座います。これは後のライトの下に付けました。此の間本校にお散歩に参りました時、学校の自動車の前に『東京女高師』と書いた札が付いて居りましたが、これを覚えて居りました丁さん『先生学校の自動車の様に此處に名前を付けませう』と早速やはり黒い板に、ヤマノクミと書いて

前に付けて居りました。

矢印。曲る時に新しい自動車は助手が手を出さずに、ス
ーツと矢印が出る様になつて居りますので、シン鋸で切
り抜き赤く塗つて端の所に付けました。すると或日Uさん
『先生今朝僕の見た自動車ね、かういふので無くて、丸い
燈りの様なのが脇について居て、其の中に矢の印が付いて
居たよ』と申して居りました。此の製作をはじめから、
子供も私達も非常に自動車に興味が出て参りまして、歩き
ながらもよく氣を付けて見る様になりました。今更らなが
ら、型にも内部の構造にも、非常に澤山の種類があります
事に驚かされるので御座います。色々變つたのを見ますと
子供達もすぐに報告に参りまして又皆で考へては作るの
御座います。

クリナー。雨の降りました時、運轉臺の窓硝子の曇を
拂ふ物で御座いますが、之れは簡単に小さい板を窓の所に
付けて置きました。これで大體自動車の方は出来上りまし
たわけで御座いますが、又毎日見て居ります中に氣付きま
した物を作つて参りますつもりで居ります。只今は自動車
を中心として、之れに關係したもの、ゴーストツブ、ガン

リンポンブ、街路樹を作る計劃を進めて居ります。

ゴーストツブ。は近頃は電氣仕掛けになつて居ります所
が多い様で御座いますが、子供達は、お巡りさんになつて
『ピーツ』と笛を吹いて『とまれ』『すゝめ』と廻し度
いと申しますので、舊式ながらこれに致しました。

ブリキの空罐の直徑約八寸位の、エナメルで『トマレ』
『ス、メ』『チュウイ』の三色を書きまして、此の外側にや
はりブリキをかぶせて色を塗り、四個所切り抜いて字の出
る所を作りました。中の罐だけに細い棒を取付けて、此の
棒を廻せば字が變る様に致しまして、太い丈夫な棒に此の
罐を取付けて立てる計畫で御座いますが、唯今まだすつか
り出来上つて居りません。此の偉大なゴーストツブが出来
上つて可愛い、お巡りさんが『ピーツ』『ピーツ』と整理を
致しますのも、一兩日の中と思ひますが、其の時のお巡
りさんの得意顔はどんなで御座います。

街路樹は。人形のお家の棒の木の様に、古い立木に、銀
杏や、ボブラ等の葉を皆で作つて行き度いと思つて居りま
す。

ゴーストツブ。も空罐やホースの古いのを利用致しま

して、作り度いと唯今考へ最中で御座います。

× × ×

此の製作に取りかゝりましてから約二ヶ月、子供達も私も、忙しい、張り切つた日々を過して参りました。

『明日の朝迄にどの位出来て居る』と楽しみに歸つて行きました子供達の爲に、少しでも餘計に作つて置いてやり度いと、汗びつしよりになつて、暗くなる迄トンカチ／＼致しましてすつかり疲れて歸りました日も幾日か御座いました。けれ共、これは本當に愉快な疲れで御座いました。私共は大體乗用車の積りで設計をして作つて参りましたが、子供達は其の時々によりまして、乗用車にもなれば、乗合ひデパートの送迎車、圓タク、貨物自動車等色々の物に致して居ります。或時はブーブーと二三回お室の中で行き來をして居りました後、

『どうもお待遠様三越で御座います。毎度有り難う御座います』と、ボーイになつたTさんがドアの外で慇懃に叩頭を致しますと、お人形を抱いた女の方が三人得意然と降りて参りました。何時もお母様方とお買物に行く時を其のま

ゝに、今日は立派なお母様になり澄して『さあ、何を買ひませうか』と言ひながらお室の中を彼處、此處歩いて居りました。

又或時は、お積木の室からどん／＼積木を運んで居りました連中が、今度は自動車の屋根の上へ一つ／＼乗せて居ります。『の所かしら』とだまつて見て居りますと、

『まだ乗るか』

『あゝまだ／＼澤山乗るよ、皆積んで行かう』

『ハイ、今度は此の桃の箱を願ひます、此の苺も積んで下さい』『早くしないと腐つちやいますよ』と申して居ります、果物を運ぶ貨物自動車で今市場へ出掛けるのだ相で御座いました。

又、四人ばかりの男の人が床の上に腹這ひになつて、自動車の下をのぞいたりして居ります。『マアどうしたの』と言はふとした私は、ハツとして止めました。今修繕中らしいのです。前の方をのぞいて居りました一人が、

『君、前の方は何處も痛んで居ないよ』と云ひますと

『さうかい、ちや後の方だね』と又後の方に手を入れて何かして居りました。すると急にMさんが、

「異ふよ、パンクだつたんだね、故障ぢやないんだよ」

と後の車の所に來てシユツ／＼と手を上下しながら、空氣を入れる眞似をして居りますと「何だ、パンクかい」と修繕中の連中が、ソツクリ起き上つて參りました。やがて『オーライ』と言ふMさんの聲に皆車中の人となつて、暫くあのラツバが鳴つて居りました。何處へ出掛けました事やら。

お天氣のよい日は折々お外に持ち出して廣いお庭も走らせて居ります。直ぐに毀してしまふのではないかしら、と考へました私共の考へとは異つて、自分達が作つた物と云ふ事から、非常に大事に／＼致して居ります。これ程に子供達が喜び、遊びの中心になつて行くと言ふ事は、實に想像以上で御座いまして、今更「よかつた」といふ氣持が致して居ります。

自動車を作ります一方、又お買物に出掛けます事が大き

今夏、東京女子高等師範學校で開かれる講習會

『新幼稚園唱歌』遊戯講習會は本會宛申込

『文部省主催の保姆講習會』は各地方長官に願出のこと。十五日の締切りに後れぬよう手續をなせ

ませ。——詳細は本誌雜録中の官報抜萃にあり。

な楽しみで御座いました。材木屋さんに、金物屋さんに、綿屋さんに、二三人づつ交代に參りますので「今度行く時は私の番ね」等と、前々から楽しみにして居りました。材木屋さんに行つては、ついでに大工さんが、スーツ／＼とよい音を立て、鉋を掛けて居りますのを、ジーツと眺めて居たり、太い木を機械にかけて細くするのを見せて戴いたり致しました。大工仕事を致します時に、一番心配致しましたのは、もし怪我をしたら、と言ふ事で御座いました。釘を落さない様に、道具は誰か先生のいらつしやる時にだけ使ふ様に、約束致しまして大人の用ひます切り出し、鑿鉋等は使つた後必ず子供の知らない所にしまつて置きました。幸ひ終りまで一人も怪我する事なく、殆めの心配も私の老婆心に終りました事は、本當によかつたと思つて居ります。